

5 持続可能な社会の構築に向けた地域づくり・人づくり

5 - 1 多様な環境教育・環境学習の推進

1 環境教育の推進体制(森林環境総務課)

(1) やまなし環境教育等推進行動計画

環境教育の果たす役割がますます重要になっていることから、平成21年3月に策定した「やまなし環境教育等実践指針」を見直し、新たに「やまなし環境教育等推進行動計画」を平成25年3月に策定しました。

計画では、本県における環境教育を推進する上での基本的な考え方や各主体の役割、県の環境教育に関する施策の方向を明らかにし、県民や学校、民間団体、事業者が様々な環境保全活動を活発に展開できるよう、各主体の役割に応じ、様々な場における環境教育に関する具体的な取り組みを体系的に分かりやすく整理することにより、効果的な環境教育の実践に資するよう配慮しました。

(2) 環境教育の推進体制

本県では、各部局にわたり様々な環境教育事業を展開しています。その体制と主な実施内容は右のとおりです。

県の環境教育推進体制と主な実施内容

森林環境部	
森林環境総務課	「山の日」啓発活動推進等
	環境日本一やまなしづくり実践活動の推進
	やまなしクリーンキャンペーンの展開
	やまなしエコライフ県民運動等各種普及啓発
	ごみの減量化、リサイクル等の推進
大気水質保全課	大気・水質保全等公害防止に係る普及啓発
みどり自然課	自然保護や緑化推進等に係る普及啓発
	「ハヶ岳環境と文化のむら」の運営
森林整備課	森林整備、森林・山村地域の活性化、森林災害予防の普及啓発
林業振興課	植樹運動、林業体験等を通じた林業普及
県有林課	「森林文化の森」の整備と利用促進
森林総合研究所	森林・林業に関する調査・研究 森の教室等の実施
各林務環境事務所	地域における環境保全活動の推進
教育庁	
義務教育課	エネルギー教育推進事業の実施
社会教育課	フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」の実施
その他の部局	
生涯学習文化課	やまなしまなびネットワークシステムの運営
エネルギー政策課	省エネルギー、クリーンエネルギーの普及啓発
企業局電気課	クリーンエネルギー学習講座等の実施
環境科学研究所 (富士山科学研究所)	環境教育事業の実施 指導者の育成等

2 環境教育の各種施策

(1) 富士山科学研究所における環境教室等(企画課)

富士山科学研究所の環境教育部門では、環境問題を地球規模で考え、身近なことから実践することの大切さを学習する「環境教室」、「自然体験講座」、「身近な環境調査」、「地域環境観察会」や、「環境写真展」等の企画展示など、幅広い環境教育事業を実施しています。

環境教育事業の概要(平成26年度)

事業名	H25実績	備 考
環境教室	団体を対象として随時開催	
自然体験講座	1回(半日)	・体験活動を取り入れながら、身のまわりのものを題材とした内容で開催
身近な環境調査	109校参加(小・中学校)	・サクラの開花調査
地域環境観察会	6回(半日または1日)	・地域の身近な自然などの観察会
環境科学講座	1回	・科学的なデータや知見を取り入れ、わかりやすい内容で開催
企画展示	「山野草写真展」 4/26～ 6/8 「動物写真展」 7/5～ 8/31 「きのこ写真展」 9/6～ 11/9 「剣丸尾の自然写真展」 11/29 ～ 1/12 「富士山・火山写真展」 1/15～ 2/24 「ある日の風景～富士山・身近な自然写真展～」 2/28～ 3/22	

(2) こどもエコクラブ活動の支援(森林環境総務課)

次代を担う子どもたちが、地域において楽しく自発的に環境学習及び環境保全活動を行う「こどもエコクラブ」の活動を支援し、その内容の充実を図っています。

県内の加入状況(平成27年3月31日現在)

- ・クラブ数...4
- ・会員数...108人(全国:クラブ数...2,199 会員数...105,904人)

事業内容

- ・こどもエコクラブ全国フェスティバル
「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に、県内の「こどもエコクラブ」から和泉エコクラブ(甲府市)が、同フェスティバルに展示する壁新聞を提出した。
- ・こどもエコクラブ事業の広報
こどもエコクラブ事業の新規登録を促すため、小中学校へのチラシの配布やホームページへの掲載等広報活動を行っている。

(3) 体験の機会の場の認定(森林環境総務課)

平成24年10月に施行された「環境教育等促進法」に基づく「体験の機会の場」として、公益財団法人キープ協会の施設等を平成24年12月に認定しました。全国に先駆けた第1号の認定です。

認定後、体験の機会の場として認定された当該施設等及び体験の機会の場の認定制度の周知を図っています。

(4) 学校林の活用推進(みどり自然課)

学校週5日制の実施や総合的な学習の時間の創設に伴い、森林の教育的利用に対するニーズが高まっ

てきている中で、児童・生徒の森林環境教育の場として学校林を活用するために必要な指導助言や情報提供を行っています。また、活動の活発化を図るため平成19年度には「森林環境教育の手引き～学校林活用マニュアル～」を発行しました。

(5)どんぐりクラブ育成事業(みどり自然課)

小学生以下の子供達に、山や森、公園に落ちているどんぐりを拾う活動を通じて、緑に親しみ、森林を大切にすることを育んでもらうことを目的として実施しています。また、集まったどんぐりは環境教育等への活用を図るため、県緑化園で養成し、希望した小中学校等に配付しています。

平成26年度は439人の子供達が会員となり、集めたどんぐりの数に応じてヤマハギとヤマブキを配付しました。

(6)エネルギー教育推進事業(義務教育課)

啓発のための「リーフレット」の作成・配布

- ・県下の小学校4年生から中学校3年生までの児童生徒及び教職員を対象に、日常生活で自ら実践できる省エネ・省資源活動等を書き込むことのできる記述式の「リーフレット」を作成・配布し、電気エネルギーをつくり出す方法や新エネルギーについての理解の促進と家庭への啓発を図っています。

エネルギー教育関連教材の貸し出し

- ・エネルギーを実際につくり出すことを体験すること等により理解の促進が図れるよう、学校ではそろえるにくいエネルギー教育関連教材を各教育事務所に備え、要望に応じて貸し出しています。

エコ活動推進キャンペーン ～地球のエネルギーについて考えよう～ の実施

- ・10月下旬から11月末までをエネルギー教育推進の強化月間とし、県下の全公立小中学校で一斉に省エネ・省資源活動の取組や発電・新エネルギーについての学習活動等を行っています。

ホームページの活用・更新

- ・義務教育課で開設しているホームページ「小中学生のためのやまなしの環境教育」を通じて、各学校の取組の様子や関連事業の紹介、環境教育・エネルギー教育の進め方、エネルギー教育関連教材等について情報発信を行っています。

(7)青少年長期自然体験活動(フロンティア・アドベンチャー「やまなし少年海洋道中」)(社会教育課)

物質的な豊かさに伴う便利な生活環境の中ではぐまれている青少年に、本県にはない海洋における大自然の中で、野外活動生活を長期間実施することにより、青少年に心の豊かさや、たくましさをはぐくむ事業を実施しています。

実施に当たっては、美しい海洋の自然に触れることにより地球環境の大切さを感じ、人と自然との共存について考える機会をつくるとともに、生活環境の異なる地域の人々との交流を進めることにより、人と人との繋がりを考える機会としています。

経 緯 昭和63年度より事業を開始し、平成26年度で27回目を迎えた。

平成26年度の実施内容

参加者 県内の中学生47名(男子31名、女子16名)

実施日 事前説明会:平成26年6月15日 日帰り (ことぶき勸学院)

	事前研修会:平成26年7月 5日～6日	1泊2日	(県立愛宕山少年自然の家)
	現地研修:平成26年8月 1日～9日	8泊9日	(東京都八丈島八丈町垂戸)
	事後研修会:平成26年8月20日	日帰り	(県立ハヶ岳少年自然の家)
体験内容	・洋上体験(船での寝食、漁船クルージング、外洋の観察等) ・自然体験(キャンプ生活、スノーケリング、野外炊事、サバイバル踏破、ピバーク等) ・交流体験(八丈島の小中学生、住民の方等) ・自主企画体験(自らの企画による活動、サバイバル踏破等) ・自然環境体験(全期間での衣食住、天候、海洋及び海洋性の自然等)		

(8)やまなしエコティーチャーの派遣(森林環境総務課)

地域における環境保全意識の高揚を図り、地域の環境保全活動に資するため、環境に関する知識や豊富な経験のある人材を環境学習指導者(やまなしエコティーチャー)として登録し、県内の民間団体等が主催する環境保全に関する研修会等に派遣しました。

やまなしエコティーチャー登録名簿(平成26年10月1日現在)

自然環境分野		氏名	役職等
氏名	役職等	岸 いず美	山宮保育園
跡部 治賢	NPO法人自然とオオムラサキに親しむ会会長	草野香寿恵	環境省環境カウンセラー
伊野 良夫	早稲田大学名誉教授	窪田 真弓	NPO法人富士川・夢・未来事務局
梶原 昇	元高校教師	黒田 光秀	(株)総合リサイクルセンター黒田・代表取締役
口野 道男	山梨地学会顧問	河野 昭三	横河マニュファクチャリング(株)甲府工場勤務
齋藤 一紀	(公財)日本鳥類保護連盟専門委員	小林 敏樹	都留文科大学非常勤講師
流石 皇甫	美花里自然教室代表	齊藤 尚子	櫛形環境とリサイクルの会会長
清藤 城宏	(公財)オイスカ緑化技術参事	櫻田 清	NPO法人協働で素敵にまちづくり南アルプス共和国理事長
関 敦隆	子ども自然体験クラブエヴォルヴ代表	櫻林いさを	環境省環境カウンセラー
竜沢 信子	やまなし環境会議会員	佐藤 悦子	県地球温暖化防止活動推進員
田中 収	大月短期大学名誉教授	澤登 早苗	恵泉女学園大学教授
内藤 邦雄	NPO法人みどりの学校副理事長	塩崎 洋子	放課後子ども教室「みんなの居場所“羽黒ほっとサロン”」代表
中川 雄三	動物写真家、日本野鳥の会富士山麓支部副支部長	志沢 美香	環境省環境カウンセラー
中込 司郎	山梨県植物研究会名誉会員	篠原 充	山梨県一般廃棄物協会会長
中村 司	山梨大学名誉教授	島崎 洋一	山梨大学准教授
野澤 健夫	HOOKかんきょう「協育」事務所代表	清水喜美男	環境省環境カウンセラー
野澤 智博	NPO法人えがおつなげて勤務	竹井 基	県地球温暖化防止活動推進員
堀内 美千恵	自然環境保全の会会長	鶴田 和彦	環境省環境カウンセラー
宮本 克己	マンズワイン(株)勤務	仲澤 早苗	山梨県消費生活研究会連絡協議会顧問
山田 健一郎	県地球温暖化防止活動推進員	中村 伯男	環境省環境カウンセラー
山本 紘治	山梨科学アカデミー会員	廣瀬 隆博	(有)サンライト代表
依田 正直	やまなし野鳥の会名誉会長	藤巻 真史	(株)田丸・会長
渡辺 尚希	アトミックアドベンチャーアズ代表	宮内 厚子	県地球温暖化防止活動推進員
生活環境分野		森野 健治	県地球温暖化防止活動推進員
青木 のり子	ユートピアこうふ緑の会代表	望月あけみ	NPO法人みどりの学校事務局長
芦澤 公子	NPO法人みどりの学校理事長	山坂 右内	山梨科学アカデミー会員
石井 迪男	山梨環境カウンセラー協会会長	渡辺 節子	県地球温暖化防止活動推進員

平成26年度実績

回数	月日	主催団体	テーマ	エコティーチャー	参加人数
1	5月23日	笛吹市立御坂保育園	自然エネルギー体験	芦澤 公子	27
2	5月24日	フィールド21都留事務所	緑のカーテン教室	内藤 邦雄	38
3	5月30日	みいづ保育園	平成26年度親子遠足樹海観察会	中川 雄三	41
4	6月3日	中道南児童館	地球温暖化について	櫻林 いさを	21
5	6月24日	甲府市立大里小学校	地球温暖化について	櫻林 いさを	126
6	6月24日	韮崎市立韮崎北東小学校	韮崎市立韮崎北東小学校5年自然環境学習(総合的な学習)藤井平・藤井せぎの自然環境と人々の生活	口野 道男	85
7	6月27日	韮崎市立韮崎北東小学校	韮崎市立韮崎北東小学校5年自然環境学習(総合的な学習)藤井平・藤井せぎの自然環境と人々の生活	口野 道男	85
8	7月1日	東山梨教育協議会	東山梨児童生徒連絡協議会代表者会学習会「山梨の自然」	中川 雄三	148
9	7月7日	東小放課後児童クラブ	地球温暖化について	櫻林 いさを	56
10	7月10日	韮崎市立北西児童センター	「大型紙芝居(イルカのKちゃん)から3Rを学ぶ」	草野 香寿恵	16
11	7月10日	富士吉田市立明見小学校	地球温暖化はどうなるか	櫻林 いさを	86
12	7月11日	学校法人 青藍幼稚園	エコあそび	芦澤 公子	50
13	7月14日	中央市立田富第一保育園	田富第一保育園エコ学習会	芦澤 公子	58
14	7月14日	国母小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	40
15	7月17日	白根百田小学校	環境教室	廣瀬 隆博	132
16	7月17日	中央市立田富第二保育園	第二保育園エコ学習会	芦澤 公子	18
17	7月24日	中央市立田富第三保育園	田富第三保育園エコ学習会	芦澤 公子	80
18	7月25日	伊勢小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	34
19	7月26日	禅道会	子供座禅会中の環境学習テーマ「すごいおひさまパワー!ソーラークッカーで実験しよう!」	廣瀬 隆博	52
20	7月28日	中央市立田富北保育園	中央市立田富北保育園エコ学習会	芦澤 公子	60
21	7月28日	東小学校放課後児童クラブ	地球温暖化私たちに出来ること	櫻林 いさを	57
22	7月28日	朝日小学校放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	29
23	7月29日	韮崎市中央公民館	～武田の里サマースクール事業～平成26年度韮崎市甘利山リトリルキャンプ事業	跡部 治賢	34
24	7月29日	大里小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	86
25	7月29日	禅道会	子供座禅会中の環境学習テーマ「ストップ!地球おんだんか・おひさまパワーでクッキング」	芦澤 公子	57
26	7月31日	甲運小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	81
27	7月31日	中央市立豊富保育園	豊富保育園エコ学習会	芦澤 公子	45
28	8月1日	大國小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	82
29	8月4日	富士川町ますほ南児童クラブ	エコについて学ぼう	芦澤 公子	51
30	8月5日	千塚小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	32
31	8月7日	池田小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	54
32	8月8日	舞鶴小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	34
33	8月8日	禾生地区学童保育なかよし教室	エコ環境学習会	森野 健治	45
34	8月11日	里吉団地放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	14
35	8月12日	社会福祉法人甲斐市社会福祉協議会	環境学習会「温暖化防止について」	山田 健一郎	30
36	8月17日	常幸院	「こども禅の集い」中のエコや環境について	清水 喜美男	23
37	8月18日	新紺屋小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	22
38	8月19日	北新小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	18
39	8月20日	盛里地区学童保育会	エコ環境学習会	森野 健治	21
40	8月21日	山城小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	105
41	9月3日	韮崎市立龍岡保育園	親子環境学習会	草野 香寿恵	137
42	9月4日	田富みかさ保育園	「ストップ!地球温暖化 こどもたちの未来のために今できること」～地球温暖化防止のための新エネルギーについて～	芦澤 公子	66
43	9月10日	韮崎市立中田保育園	親子環境学習会	草野 香寿恵	25
44	9月11日	甲府市立甲運小学校	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	57
45	10月8日	甲府市立中道南小学校	地球温暖化の影響は?	櫻林 いさを	19

回数	月日	主催団体	テーマ	エコティーチャー	参加人数
46	10月23日	甲斐市立竜王西小学校	エネルギーについて考えよう	島崎 洋一	41
47	10月23日	都留市立禾生第一小学校	「二酸化炭素ゼロやまなし」	島崎 洋一	43
48	11月14日	都留市立禾生第一小学校	「ソーラー王国ヤマナシ」	島崎 洋一	45
49	11月17日	甲府市立国母小学校	地球温暖化の影響は？	櫻林 いさを	70
50	11月18日	韮崎市立旭保育園	親子環境学習会	草野 香寿恵	119
51	11月19日	甲斐市立双葉西小学校	第5学年総合的な学習の時間「守ろう美しい双葉～ホテル愛育活動を通して～」	山田 健一郎	79
52	12月14日	米沢公民館	区民学習会「節エネについて」	清水 喜美男	30
53	12月24日	甲府市立玉諸小学校	地球温暖化の影響は？	櫻林 いさを	117
54	12月26日	舞鶴小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は？	櫻林 いさを	26
55	1月6日	大国小放課後児童クラブ	地球温暖化の影響は？	櫻林 いさを	40
56	1月10日	ひまわりの会	地球温暖化の影響は？	櫻林 いさを	75
57	1月13日	甲府市立池田小学校	地球温暖化の影響は？(水について考える)	櫻林 いさを	84
58	2月20日	大月市立大月東中学校	自然と人間と科学技術	黒田 光秀	84
59	2月27日	南アルプス市立白根東小学校	白根地区の未来を考えよう	草野 香寿恵	29
60	3月15日	中田町公民館	中田町ウォーキング見なおそう・ふるさとの自然環境と歴史、文化を探る(早春の七里岩台地の自然環境)	口野 道男	50
計				総数	3409

(9) やまなし環境学習プログラムの策定(森林環境総務課)

地球温暖化対策を推進していくため、民間団体等への委託事業により、平成23年3月に太陽光発電等自然エネルギーの分野に関し、小学校中学年用・小学校高学年用・中学校用の3件のプログラムを策定し、学校や民間団体、環境学習指導者等へ提供することとしました。

環境学習プログラムは、子どもたちがそれぞれの発達段階において、体験的活動を中心に、そこから得られる自然環境や社会問題について「学び」「話し合い」「行動に移す」ことを効果的に行うことができるよう構成された実践的な指導用手引き書です。

対象	プログラム	内容
小学校中学年	「やまなしのエコ大作戦」	体験やクイズを通じ、エネルギーについて知り、エコライフ宣言をする。
小学校高学年	「二酸化炭素ゼロやまなし」	山梨県の温暖化対策の目標を知り、身近なエコの方法を川柳で表現する。
中学校	「ソーラー王国やまなし」	山梨県のエネルギー計画を知り、未来のエネルギーの使い方を考える。

また、本プログラムは、小中学校の先生方だけでなく、地域で環境学習を実践している環境学習指導者も使えるように作られており、公民館等の場所で実践することができます。

5 - 2 人材の育成

1 富士山科学研究所の取り組み(企画課)

山梨県富士山科学研究所では、環境問題や環境教育への理解をより一層深めることを目的に、また、将来的には地域の環境活動を推進しうる人材を養成する第一歩となるよう、環境生涯学習プラン「富士山科学カレッジ及び山梨環境科学カレッジ大学院」を開講しています。平成26年度の実績は次のとおりです。

富士山科学カレッジ(受講生:26名)

種別	内容	講師	実施日
開講式	開講式・カレッジプログラムの確認	環境教育スタッフ	5/10
必修講座	1) 基礎講座「富士山の自然」	環境教育スタッフ	5/10
	2) 富士山科学講座 「火山としての富士山～その防災・減災を考える」	藤井敏嗣(当研究所 所長) 荒牧重雄(当研究所 名誉顧問)	5/24
	3) 専門講座A(自然系) 「富士山の植物の特徴と生態」	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	6/14
	4) 専門講座B(火山系) 「火山としての富士山 ～富士山・富士五湖の成り立ち湧水～」	内山 高(当研究所 主幹研究員)	6/28
	5) 専門講座C(共生系) 「富士山地下水の利用と住民の健康」	長谷川達也(当研究所 研究管理幹)	7/12
	6) 富士北麓自然観察会	渡辺信介、中川雄三、水越文孝(日本野鳥の会富士山麓支部)	10/18
選択講座A	企画展示～写真展 1) 山野草写真展 2) 動物写真展 3) きのこ写真展		4/26～6/8 7/5～8/31 9/6～10/18
修了式	修了証書授与		10/18

山梨環境科学カレッジ大学院(受講生:13名)

種別	内容	講師	実施日
開講式	開講式・大学院プログラムの確認	環境教育スタッフ	5/10
基礎講座	自然観察会の方法と運営	環境教育スタッフ	5/10
応用講座	2) 富士山科学講座 「火山としての富士山～その防災・減災を考える」	藤井敏嗣(当研究所 所長) 荒牧重雄(当研究所 名誉顧問)	5/24
専門講座	A) 富士山の植物の特徴と生態	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	6/14
	B) 「火山としての富士山 ～富士山・富士五湖の成り立ち湧水～」	内山 高(当研究所 主幹研究員)	6/28
	C) 「富士山地下水の利用と住民の健康」	長谷川達也(当研究所 研究管理幹)	7/12
臨地講座	A) 自然観察プログラムの実際 ネイチャーガイド・ゲームの実際	有田俱通(環境省認定登録・環境カウンセラー、自然解説員) 環境教育スタッフ	7/19
	B) 青木ヶ原を訪ねる	小野巖(富士河口湖町自然解説員)	8/30
	C) アカマツ林調査	中野隆志(当研究所 主幹研究員)	9/27
演習講座	A) 自然観察プログラム作成	環境教育スタッフ	10/11
	B) 自然観察プログラム実習	環境教育スタッフ	10/25

2 森林総合研究所における研修(林業振興課)

林業従事者や後継者、また将来の担い手となる者を対象に技術研修を行い、地域林業や森林・林業教育の中核的指導者となるよう人材養成を行っています。平成26年度の実績は次のとおりです。

(1) 専門研修(対象: 県、市町村及び森林組合職員 ほか)

研修教科	{ 研修名 } 及び内容	実施日	受講者数
経営・機械	「林業安全作業指導」(チェーンソー & 刈払機の取扱いに係る特別及び安全衛生教育)	H26.5.20-5.22	19
森林土木	森林土木測量入門	H26.6.2/6.3	16
経営・機械	「架線系集材技術の基礎」(機械集材装置の運転に係る特別教育)	H26.6.26/6.27	10
経営・機械	林業架線免許講習	H26.6.3-7.10	8
森林土木	保安林実務研修	H26.7.24	57
労働安全	技術職員の安全管理(現場で被災しないために)	H26.8.27	27
特用林産	特用林産の基礎知識	H26.9.27	4
作業路網	森林作業道の基礎知識	H26.10.9	19
労働安全	伐木における安全作業に関する研修	H26.10.15	17
森林土木	法面緑化基礎	H26.10.24	10
森林土木	構造物点検のポイント	H26.10.24	30
森林環境教育	森林環境教育～安全な伐木・かかり木処理の指導方法～	H27.1.21	27
経営・機械	「林業安全作業指導」(チェーンソー & 刈払機の取扱いに係る特別及び安全衛生教育)	H27.2.2/2.9/2.10	20
森林計画	市町村森林整備計画の策定に必要な基礎知識	H27.2.13	23
森林計画	UAVを用いた地上観測技術	H27.2.20	36
環境保全	森林の多面的機能の基礎知識	H27.2.25	16
労働安全	県有林の適切な森林管理において求められるもの(FSC関連研修)	H27.3.9	85
育林・育種・森林整備	広葉樹施業の基礎知識	H27.3.9	37
森林保護	森林被害をもたらす重要病害虫の基礎知識	H27.3.17	10
計			471

(2) 基礎研修【新規参入支援研修】(対象: 林業への参入・就業希望者)

研修教科	内 容	実施日	受講者数
講 義	本県林業の現状と課題、新規参入事例の紹介	H26.7.18	8
	きのご等生産・販売の実績		
	森林作業道(簡易な林内路網)の現地視察及び意見交換		
計			8

(3) 技能者養成研修(対象: 林業従事者)

内 容	実施日	受講者数
「機械集材装置の運転の業務に係る特別教育」(2年目)	H26.6.24/6.25	10
GPS測量の方法(2年目)	H26.7.15	10
刈払機のメンテナンス チェーンソーのメンテナンス(2年目)	H26.7.16	10
木材流通と木材利用 木材の特性 安全な素材生産作業の確認	H26.9.3/9.4	11
路網の種類と目的 安全な路網開設・維持作業	H26.9.17-9.19/9.24-9.26	11
安全なかかり木等処理作業	H26.9.30/10.1	11
森林施業の体系 森林整備の省力化・低コスト化作業	H26.10.2/11.10	11
効率的な高性能林業機械の使い方 高性能林業機械操作の検証	H26.10.21/10.28-10.30	11
道具・資材のメンテナンス(2年目)	H26.11.6	10
車両系高性能林業機械のメンテナンス 架線系高性能林業機械のメンテナンス 機械類の管理手法	H26.11.10/11.12/11.13	11
計		106

(4) 教員指導者養成研修(対象: 教職員)

研修名	内 容	実施日	受講者数
身近な自然の指導法研修会	「植物と親しむ(押し葉標本作り)」 「森林・林業の基礎知識」 「森林と人との関わり方」	H26.7.23	18
環境とものづくり研修会	「森林・林業・木材の基礎知識」 「木工作入門」 ・木材の性質について ・木工作道具の使用方法 ・製作技法の基礎知識 ・木工作授業の計画方法	H26.7.25	24
計			42

5 - 3 環境に関する活動の展開

1 参加と連携による環境活動(森林環境総務課)

環境の保全と創造を図るためには、私たち一人ひとりが人間と環境との関わりについての理解と認識を深めるとともに、県民・事業者・民間団体・行政等がそれぞれの主体の特性を活かし、互いに補完しながら、連携して取り組むことが必要です。

県では、「やまなし環境月間」や「環境フォーラムinやまなし」の開催などを通じて、県民の環境保全への意識の高揚を図っているほか、環境保全実践活動の展開を支援・促進するため、「環境保全活動支援事業費補助金」(平成19年度～)により、市町村(一部事務組合も含む)や民間団体が地域住民と一体となって実施する先駆的・モデル的など環境保全事業に対して補助を行うとともに、民間団体と行政や企業等2者以上が協働で実施する環境保全活動に対しても「山梨県地域活性化協働事業費補助金」(県民生活・男女参画課：平成25年度～)により助成を行っています。また、地域の民間団体等が開催する環境問題に関する講演会や学習会等に対して講師を派遣する「環境学習指導者派遣事業(やまなしエコティーチャー)」(平成21年度～、平成7年度から平成20年度までは「環境アドバイザー派遣事業」)を実施し、地域の環境保全活動を支援しています。さらに、これらの活動が日常生活の中に定着していくことを目的として、環境美化活動に取り組む一斉活動日を設け、やまなしクリーンキャンペーン(平成8年度～)を提唱、実施しています。

(1)環境保全活動支援事業費補助金(森林環境総務課)

交付先 市町村名	事業内容	交付先 市町村名	事業内容
甲府市	・太陽エネルギー体験教室	大月市	・アダプトプログラム推進事業
	・Kids ISOプログラム	韮崎市	・環境講座の開催
	・保育所、幼稚園における環境教育推進事業		・Kids ISOプログラム
	・うちエコ診断事業		・緑のカーテン設置
	・資源物24時間ステーションの設置	南アルプス市	・リサイクルプラザの整備
山梨市	・Kids ISOプログラム	甲斐市	・リサイクルステーションの設置
	・エコキッズ養成塾の開催	身延町	・「緑のカーテン」を利用した環境学習会の開催
	・ごみ減量啓発缶バッジの作成	富士川町	・リサイクルステーションの設置
	・家庭用生ごみ処理機の整備		

(2)やまなしクリーンキャンペーン(森林環境総務課)

県では平成8年度から、子供から高齢者まで県民参加による環境美化のための一斉活動日を提唱し、私たちが日頃から慣れ親しみ愛着のある身近な環境での全県一斉クリーンキャンペーンを展開しています。

平成26年度は、一斉活動を年6回実施しました(5月30日、7月30日、9月30日、11月30日、1月30日、3月30日)。

(3)やまなし環境月間(5月30日～6月30日)における取り組み(森林環境総務課)

環境基本法においても定められた「環境の日(6月5日)」を中心として、環境美化の日(5月30日、ゴミゼロの日)から6月末までを「やまなし環境月間」とし、環境保全に向けた各種行事を実施しています。

平成26年度環境月間行事

行事名	概要	主催
やまなしクリーンキャンペーン	子供から高齢者まで県民が参加して、日頃から慣れ親しんでいる身近な場所の環境美化に取り組む一斉活動を行った。	山梨県、市町村
ごみ減量・リサイクル推進キャンペーン	県内主要地域において啓発物品を配布し、ごみの減量とリサイクルの推進を呼びかけた。	山梨県、市町村
環境フォーラム in やまなし	やまなし環境月間の中心行事として実施。環境問題を楽しく学ぶため、橋本尚子氏を招き「地球温暖化について考えよう」と題した記念講演を行った。 また、山梨県環境保全功績者表彰として、環境保全に関する県民等の意識の啓発、高揚を図るため、地域の環境保全に顕著な功績のあった者を知事表彰した。	山梨県
環境情報コーナー	一般県民が多く利用する公共施設等において、環境に関する資料・パネル等を展示し、環境問題への意識啓発を図った。	山梨県
環境保全のための新聞広告掲載	環境保全の意識啓発を図るため、新聞広告を掲載した。	山梨県
新聞・広報誌等による広報	新聞・広報誌等により、環境保全・美化運動への参加を呼びかけた。	山梨県

(4)「やまなし森づくりコミッション」の支援(みどり自然課)

企業や団体、県民参加の森づくりを推進するため、こうした森づくりの活動をサポートする組織として、平成19年8月に県と森林・林業、環境関係の25団体により設立された、「やまなし森づくりコミッション」への支援を行いました。(コミッション事務局は、(公財)山梨県緑化推進機構)

森づくり活動の支援

・企業・団体の森づくりの推進：森林整備協定の締結、森づくり活動への参加に関する相談、活動資材の提供、森づくりに関する講師の派遣、森づくりイベントの紹介、森づくり活動の企画・立案への協力ほか

「エコプロダクツ2014」への出展

・期間：平成26年12月11日～13日

・場所：東京都江東区・東京ビッグサイト

コミッションと企業の森づくり活動等の紹介

ホームページURL:

<http://www.y-forest-commission.jp/>

「山梨県庁のホームページ」 「組織から探す」 「森林環境部」

「みどり自然課」 「やまなし森づくりコミッション」



(5)CO₂吸収認証制度(みどり自然課)

地球温暖化防止や水資源の涵養^{かん}など、森林の多面的な役割に対する県民の関心や、企業・団体の社会貢献活動としての森づくり活動に対する関心が高まっています。県では、企業・団体の森づくりへの参加促進と、より多くの県民が森づくり活動の効果に関心を持つ契機とするため、県内で森づくり活動を行う企業、団体の森づくり活動によるCO₂吸収量を認証する「やまなしの森づくり・CO₂吸収認証制度」を推進しています(平成26年度CO₂吸収認証：23件、236.0t-CO₂/年)。

t-CO₂(二酸化炭素トン)：二酸化炭素の重さで、1t分の二酸化炭素(t-CO₂)は、体積にすると546m³、25mプール1杯分

に相当。

(6) やまなし土木施設環境ボランティアの推進 (道路管理課・治水課)

やまなし土木施設環境ボランティア推進事業は、自治会、老人クラブ、商店会、住民の有志等地域住民団体並びに企業、学校等及びその従業員、児童生徒等の団体の代表者が、公共施設を所管する建設事務所長に環境ボランティア届けを提出、県及び市町村との三者で合意書を取り交わし、県が管理している道路、河川、公園施設の清掃、除雪、除草、草花の植栽等の美化活動をする制度です。

県では、この事業を支援するため、美化活動に必要なカンナ、鍬、ゴミ袋等の清掃用具、安全確保のための簡易バリケード等を支給するほか、活動中の事故に備えてボランティア保険に加入します。平成15年9月より募集を開始し、平成15年度末で16団体であった合意団体は、平成26年度末で89団体となっており、土木施設の維持管理及び地域の環境に対する住民意識の高揚を図り、快適なまちづくりを推進しています。

(7) 山梨県環境保全基金 (森林環境総務課)

県民、事業者等に対する環境の保全に関する知識の普及、実践活動の支援、地域に根ざした環境保全活動を推進することにより、県土の環境の保全を図るため、平成2年3月27日に「山梨県環境保全基金条例(以下「基金条例」という。)」を公布・施行し、基金条例に基づく山梨県環境保全基金(以下「基金」という。)を設置しました。

基金の額

基金の額は、平成元年度に国の地域環境保全対策費補助金及び地方交付税交付金による財源措置をそれぞれ2億円受けて4億円とし、その後、平成3年度に県が4億円を増額し、平成26年度末現在で約8億9百万円となっています。

基金運用益の処理

基金の運用から生ずる収益は、毎年度の歳入歳出予算に計上し、基金の設置の目的を達成するために必要な経費の財源に充てることとしています。平成26年度の運用益約685万円を活用して、次の事業を実施しました。

- ア やまなし環境月間
環境月間及び環境の日の新聞広告掲出及び環境フォーラムの実施等
- イ 環境保全活動支援事業費補助金
市町村等が実施する環境の保全と創造に関する事業に対する補助
- ウ やまなしクリーンキャンペーン
全県一斉クリーンキャンペーンを展開するための広報、啓発の実施
- エ 環境保全功績者表彰
地域の環境保全に関し顕著な功績のあった個人又は団体の表彰
- オ ごみ・リサイクル推進キャンペーン
ごみ減量とリサイクルを推進するための街頭キャンペーンの実施

5 - 4 協働取組の促進

1 県民・事業者・行政のパートナーシップの構築

(1) 環境パートナーシップやまなし(森林環境総務課)

目的・概要

環境保全のための活動は、個人から各種団体まで規模や活動内容が多様化しており、団体間の連携や情報交換の場づくりが求められています。そこで、県民・事業者・行政のパートナーシップ(協働)のもと、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的とし、平成9年6月5日、環境パートナーシップやまなし(会長:宮川睦武 県中小企業団体中央会名誉会長)が設立されました。

事業内容

活動情報の交換及びネットワークづくりのための事業

- ・広報誌の発行(年4回)
- ・「県民の日記念行事」におけるごみ持ち帰りパレードの実施など

3R推進・温暖化対策のための事業

- ・「エコライフお絵かきコンテスト2014」の実施
- ・「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」の開催
- ・県民の日記念行事への出展

県事業との協働

- ・やまなしクリーンキャンペーンの共催など

(2) 山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会(森林環境総務課)

目的・概要

レジ袋を削減するための方策やレジ袋削減についての意識啓発等を行うため、事業者、消費者団体、行政等を構成メンバーとして、平成19年8月31日に山梨県ノーレジ袋推進連絡協議会(会長:金子栄廣 山梨大学教授)が設立されました。

事業内容

平成20年度から、レジ袋の無料配布を中止することにより、レジ袋を削減する運動を実施しています。

この運動を推進するため、事業者、消費者団体、商工団体、山梨県及び市町村と「山梨県におけるマイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結しています。

この協定に基づき、県内の主なスーパーマーケットやクリーニング店等でレジ袋の無料配布を中止しています。

・マイバッグ持参率とレジ袋の削減効果(平成20年7月～平成27年3月)

マイバッグ持参率	86.6%	レジ袋削減重量	6,217トン
レジ袋辞退者	38,797万人	原油削減量	12,839トン
レジ袋辞退枚数	53,762万枚	二酸化炭素削減量	28,942トン

株式会社アマノ	生活協同組合パルシステム山梨	株式会社深澤商事
株式会社いちやまmart	巨摩野農業協同組合	株式会社富士急百貨店
株式会社イトーヨーカ堂	株式会社さえき	マックスバリュ東海株式会社
株式会社オギノ	生活協同組合ユークラブ (生活協同組合市民生協やまなし)	株式会社山交百貨店
株式会社かわすみ	株式会社セルバ	株式会社やまと
株式会社公正屋	株式会社日向	ユニー株式会社

・平成20年11月6日 第2回協定締結 8事業者10店舗

株式会社グルメシティ関東	株式会社トライアルカンパニー	山梨県立大学生生活協同組合
有限会社スーパーかわぐち	株式会社ひまわり市場	山梨大学生生活協同組合
株式会社ダイエー	企業組合ワーカーズコレクティブパクぱく	

・平成21年5月26日 第3回協定締結 11事業者1組合347店舗

株式会社マルシNSTアー	有限会社サンクリーニング	株式会社クリーニングすわん
双葉農の駅企業組合	株式会社オスカー	株式会社ホワイト急便山梨
梨北農業協同組合	有限会社鈴屋リネンサプライ	山梨県クリーニング生活衛生同業組合
ふじかわ農業協同組合	株式会社クリーニング志村	株式会社ヨンマルサン

・平成22年9月1日 第4回協定締結 1事業者1店舗

株式会社ベイシア

・平成23年2月27日 第5回協定締結 1事業者1店舗

イオンリテール株式会社

・平成23年6月7日 第6回協定締結 2事業者2店舗

株式会社白根	株式会社有機村
--------	---------

企業組合ワーカーズコレクティブパクぱくは、平成22年7月で対象店舗閉店。

株式会社グルメシティ関東は平成24年5月、株式会社マルシNSTアーは平成24年9月、株式会社日向は平成25年1月で対象店舗閉店。

株式会社トライアルカンパニーは平成25年6月で協定から脱退、株式会社富士急百貨店は平成25年12月で対象店舗閉店。

(3) 環境に関する企業連絡協議会 (森林環境総務課)

「企業の抱える環境問題」を解決するため、県内の企業171社(平成25年7月現在)で構成している環境に関する企業連絡協議会(平成26年度会長:西川 勝仁 (株)山梨文化会館 代表取締役常務)では、次の活動を行っています。

- ・環境に関する啓発活動の実施、各種取り組みへの参加
- ・各種環境研修会の開催
- ・環境美化活動の実施
- ・他の環境団体との連携

2 民間団体の環境保全活動への支援(森林環境総務課)

(1) 公益財団法人やまなし環境財団

「やまなし環境財団」は、山梨県が民間の篤志家からの寄付をもとに、環境保全に向けた県民の意識の醸成を図るとともに、民間団体の自発的な環境保全への取り組みを支援することを目的に設立したものです。

財団の概要

- ・設立年月日 平成9年11月20日
- ・基本財産 4億8,284万7,206円(平成27年3月31日現在)
- ・所在地 甲府市丸の内1-6-1(森林環境総務課内)
- ・理事長 守屋 守(森林環境部長)

財団の事業内容(平成10年度から実施)

ア 環境保全活動支援助成事業

県内で環境保全活動をしている民間団体等が行う実践活動、普及啓発活動、調査・研究活動などに助成する。

(助成内容)

スタートアップ助成: 環境保全活動を新たに開始または開始後3年未満の団体等の活動に対して助成(助成率10/10以内で20万円を限度)

ステップアップ助成: 環境保全活動を開始後3年以上行っている団体等の活動に対して助成
・助成率1/2以内で50万円を限度(助成期間10年間を限度)
・助成率1/2以内で15万円を限度(助成期間11年目から3年間を限度)

平成26年度は、スタートアップ助成12団体、ステップアップ助成23団体の計35団体に4,609,000円を助成した。

イ 「若宮賞」表彰事業

優れた環境保全活動を行っている個人、団体を表彰(本財団の設立に御協力いただいた方の名前を記念し「若宮賞」としている)。

表彰対象: 概ね2~3年以上継続して行っている環境保全に関する実践活動で、清掃美化、ごみ減量化・リサイクル、大気・水質浄化、環境教育等に関する活動を対象とする。
平成26年度は、2個人4団体を表彰した。

ウ やまなし環境活動推進ネットワークフォーラムの開催

環境保全活動に取り組む民間団体等に交流の場を提供し、参加者の相互理解とネットワークの形成を目的に開催。平成26年度は、環境パートナーシップやまなしとの共催で、平成27年1月31日にびゅあ総合(男女共同参画推進センター)において、リレートーク等を実施し、活動状況等の発表や意見交換により参加者の相互交流を図った。

エ 情報提供事業

環境保全活動を行っている個人・団体又は興味を持っている県民に環境に関する情報を広く提供するため、財団の事業や活動団体の紹介、県や活動団体等から寄せられた情報等を掲載するホームページを作成し情報発信するとともに、メールによる情報提供を行う。

オ 温暖化防止対策支援事業

山梨県地球温暖化防止活動推進センターに事業を委託し、実効性の高い効果的な地球温暖化防止対策の普及啓発や環境教育を実施する(委託事業内容:温暖化防止の相談窓口設置業務、温暖化防止教室開催業務、地域特性活用業務(通信誌発行、温暖化防止活動研修会開催、温暖化防止活動事例研究会開催)。

3 桂川・相模川流域環境の保全(森林環境総務課、富士・東部林務環境事務所)

相模川は、その源流を山中湖に発し、山梨県内では桂川と呼ばれ、神奈川県に入ってから相模川と名前を変え、相模ダム(相模湖)、城山ダム(津久井湖)を経て、平塚市で相模湾に注ぐ全長113kmの一級河川です。両県の県民に過去から現在まで多くの恵みを与え続けている桂川・相模川の流域環境を、将来の世代にかけがえのない資産として引き継いでいくため、上流部の山梨県と下流部の神奈川県が流域に与えている環境負荷や、その改善のために果たすべき役割を認識したうえで、県域を越えて、流域の市町村、住民、企業等と一体となって、流域環境の保全に取り組むことを目的に、平成7年9月から両県の共同事業として「桂川・相模川流域環境保全推進事業」を開始しました。

この事業では、平成9年度までの3か年に、問題提起と合意形成を図るための流域シンポジウムや流域サミットを開催するとともに、流域の住民や市民団体・事業者・市町村等と一体となったクリーンキャンペーン、住民参加型環境調査、パートナーシップ交流等を実施し、併せて流域の全体像を把握するための流域環境基礎調査や流域環境の保全に関する住民意識調査を実施しました。

これらの事業成果を踏まえ、事業の最終年度となる平成9年度には、流域全体の環境保全のための推進母体として、流域の市町村や市民団体、企業等で構成する流域協議会を設置(平成10年1月20日)し、平成10年1月31日行動計画となる「アジェンダ21桂川・相模川」を策定しました。平成10年度からは、この流域協議会として活動を進めています。平成26年度の主な事業の実施状況は次のとおりです。

(1)クリーンキャンペーンの実施

流域で行われるクリーンキャンペーンの情報を集め、広く県民等に周知することにより環境保全活動への参加を促すとともに、簡易水質検査や水生生物調査等を行い、水質保全をはじめとする流域環境保全の重要性について啓発を行った。

- ・実施箇所 山中湖から相模川河口までの31か所
- ・参加人数 35,728人
- ・実施内容 ごみ清掃、簡易水質調査、水生生物調査等

(2)流域シンポジウムの開催

「夢枕獺さんの面白い川の話と川の自然の楽しみ方」をテーマに、神奈川県寒川町において開催。第1部では、夢枕獺氏による講演が行われ、絶滅危惧種となっている川ガキの復活のため「川ガキ特区」の設置についてのアピール、第2部では、「相模川水系河川整備計画」について、市民と行政との対話が様々な切り口で交わされた。

- ・開催日 平成26年12月7日
- ・開催場所 寒川町民センター
- ・参加者 約281人
- ・内容 (基調講演)作家 夢枕獺氏
(ディスカッション)行政と市民の対話 - 相模川河川整備計画 -

(3)環境調査事業の実施

ア 外来種調査(相模川全域)

アメリカザリガニの生息状況や在来種への影響などについて、調査を実施した。

イ 身近な水環境の一斉調査

第11回「身近な水環境の全国一斉調査」に参加した。一斉調査日である6月8日を中心に、流域内外の141地点で調査を実施し、結果をとりまとめた。